

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195700091		
法人名	有限会社 ファイン		
事業所名	グループホーム ファイン ユニット1階		
所在地	岩見沢市1条西13丁目2-4		
自己評価作成日	平成30年1月19日	評価結果市町村受理日	平成30年3月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JigyosyoCd=0195700091-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各ユニットが3つの空間に分かれており、利用者3人に職員1名で3+1の4人家族の様のイメージで生活することを心掛けてゆったりとした空間の中で個人の尊厳を大切にしご本人らしい生活が出来るように支援させて頂いております。
建物裏には畑があり毎年色々な種類の野菜を作り、近隣住民の方が定期的に畑を見に来て手入れ方法や野菜の育て方を教えてくれます。野菜の生り具合を見に行き利用者と職員と一緒に草取り・水やり・野菜の収穫をしています。お天気の良い日には畑に面したバルコニーで心地よい風と太陽の光を感じながらゆったりとお茶を飲んで過ごしています。今年度は外出時の運転手を雇い入れたのでドライブ・お祭り・催し物や記念館等への見学をしたりと様々な外出行事がありました。
職場体験実習で毎年市内の中学生を受け入れております。建物の駐車スペースで行われる夏祭りでは毎年多くの皆様に来て頂いております。今後は地域住民の皆様と更に交流を深めて地域に貢献できるような仕組みづくりに取り組んでいきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ファイン」は、JR岩見沢駅から徒歩で10分ほどの住宅地に建っている2ユニットの事業所である。2階建ての共用空間はリビングを中心に談話コーナーやリビングに沿って1階にウッドデッキと2階にはバルコニーがあるなど、全体的に開放的で過ごしやすい住環境が提供されている。開設5年目を迎える当事業所は提携医療機関やかかりつけ医との連携を密に健康を管理し、家族の安心感につながっている。運営推進会議と同日に委員の参加を得て避難訓練を行い、災害時の協力体制も整備されている。事業所の夏祭りには町内会長を招待し、岩見沢市子供太鼓グループなどの催しを観覧しながら住民と交流している。また多様のボランティアを受け入れており、事業所内で楽しめる機会を継続して行っている。外出では「外出確認表」を基に出かける機会を作り、散歩、外気浴、個別支援、季節の行事など、暖かい時期には毎日のように外気に触れている。冬季も玄関前で消防署員の初訓練を見学したり、子供ミュージカルを観覧して楽しんでいる。管理者はマニュアルの整備や研修の年間計画を作成し、職員の育成にも力を注いでいる。介護計画に沿って職員は個別ケアを行い、入居前から利用していたデイケアを継続し、畑作りやドライブ好きの利用者など馴染んだ暮らし方を大切に、日々温かな姿勢で対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を確認できるところに掲示しており、スタッフ一同日々理念を確認し、理念に基づいた支援を心掛けているが、全職員には浸透していない。	地域との関わりを盛り込んだ理念を要所に掲示し、住民との交流を実践している。職員の採用時に理念の精神を伝えている。年度始めに職員全体で年度の取り組みを確認する際に理念にも触れている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っており、運営推進会議・夏祭り・クリスマス会等の行事には参加して頂いている。町内の行事に職員が参加することもあります。畑作業を町内会の方や毎月来て頂いているボランティアさんに手伝って頂いています。	町内会行事には物理的な事情で利用者の参加は難しいが職員が親睦会などに参加している。ボランティアの来訪で、習い事やピアノ演奏で歌う楽しみを継続して行っている。また外出計画を通して地域と積極的に関わっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて認知症の方の心理や行動等を伝えたり、散歩をして地域の方と直接会話をして認知症の方を理解してもらえるように努めています。また、併設の訪問介護事業所を通じて介護の相談にのるようにしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所高齢介護室・包括支援センター・町内会・ご家族に参加していただき、運営状況報告し様々な意見を頂き、職員会議でサービスの質の向上につながるように話し合っている。	会議を2か月ごとに開催し、行事、防災、外部評価、事故防止などを議題に意見を交換している。提携の訪問看護師を講師に勉強会も行っている。今後はテーマ設定の年間計画を作成して送り、家族の意見を得て会議に活かしたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議に出席して頂きアドバイスを頂いている。毎月入居状況を報告している。電話やメールを利用し連絡を密にとることにより協力関係を築けるように努めている。	行政主催の研修会に参加し、内容や情報をユニット会議で共有している。介護職員を対象にした市の「ケア会議」には当事業所の職員も参加して情報を交換している。玄関の施錠について市の担当者や消防署職員に相談して対応している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で身体拘束について勉強会を行っている。今後は外部研修にも参加して禁止の対象となる具体的な行為について正しく理解するように取り組んでいる。施錠せず自由で開放的な居住空間を大事にしています。	内部研修の中で、身体拘束の禁止行為11項目を読み上げて理解を深めている。安全面から拘束につながる事例もあり、家族の意向を確認し時間的な調整で少なくするよう対応している。外部者の防犯から市の担当者と話し合い、1階の玄関を施錠しているが職員の見守りで外に出ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で虐待防止について勉強会を行っている。虐待の前段階の不適切なケアを理解し職員同士や管理者と職員が密に情報交換やコミュニケーションを取って話し合っている。		

グループホーム ファイン

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の外部研修に管理者が参加しました。現在支援を必要としている方はいませんが、以前制度を利用されていた入居者の関係者とは繋がりを継続しているので必要時には活用できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約内容の説明・グループホームでの生活を説明しています。不安や疑問点はいつでもお問い合わせして頂けるよう伝えています。改定の際は文章で説明し同意を得るように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来所時には日々コミュニケーションをとり、話しやすい環境を作っています。仕事で忙しく連絡が難しいご家族とはメールでやりとりをしています。家族からの要望や意見は申し送りノートに記入し職員間で情報共有し、職員会議で話し合っています。	家族の来訪時に相談してケアや介護計画に取り入れている。毎月の通信のほか、2か月ごとに個別にお便りを作成して普段の暮らしを伝えている。今後は家族の些細な思いを把握し、職員の気づきも記載できるように個別ごとの書式を検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で職員の意見や提案を聞き 施設運営に生かしている。年に1回施設代表が職員と個人面談を行い運営に関することや困っていることがないか話を聞いています。	ユニット会議で職員の意見を引き出し、業務、ケア、介護計画の見直しなどで意見を交わし、研修報告や内部研修も行っている。職員は利用者担当や3つの委員会に所属し、全員が役割で運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社会保険労務士と顧問契約を締結しており、定期的な指導を受け労働条件・職場環境の向上に努めている。職員個々の希望に沿った勤務シフトを作成し働きやすい環境に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修では外部講師を招いて身体介護の研修を行ったり、管理者が職員の力量に応じて個別にケアの方法を研修することがある。資格取得の講習に「行く場合は勤務シフトの調整や費用の援助をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しています。他の施設に見学に行き日中の過ごし方の参考にして質の向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・家族と面談し今までの生活歴などを伺い、在宅時のサービス事業所にも様子を伺いご本人らしく生活できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、不安に思っている事を聞き施設として何が出来るか・どういう対応をしていくか説明し一緒に考えていく姿勢に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のアセスメントや在宅時のケアマネやサービス事業所から情報収集し必要な支援を見極め家族と相談しながら出来る限りのことをする。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることは出来る限り行って頂くようにサポートし、声をかけて共に生活するという意識を持って安心して生活できるように心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも家族が来所できるような雰囲気作りを心掛けています。来所時にはご本人の様子を報告し情報を共有するようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が来訪された時には 自室内だけではなく応接スペースに案内し自宅に遊びに来たかのようなゆっくりとお話できる雰囲気でもてなし、いつでも気兼ねなく会えるように配慮することに努めています。	知人や友人の来訪時には寛げる環境を提供している。家族と買い物や外食を楽しみ、職員の同行で化粧品や洋服を買いに出かけている。入居前から利用していたデイケアを継続し、畑作り、ドライブなど利用者が馴染んだ暮らし方を支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流の際は職員も間に入り円満な人間関係が築けるように支援し、時には席替えなどをして孤立する利用者がいないように配慮に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も何か困った事がある場合はいつでも相談にのることを伝えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報をもとに日々の関わりの中で本人の思い・希望の把握に努めている。職員会議やケース会議で情報を共有している。	入浴の場面で個別の思いを聞くことが多い。課題分析シートの項目に興味なども記録しているが、利用者目線でのセンター方式(B-3)シートを活用し、利用者の言葉を記載したいと考えている。	利用者との会話から得た意向の変化も追記し、介護計画書1表に記載して計画に反映できるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・在宅時のケアマネから情報収集に努めて、職員会議などで情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活のペースに合わせ負担にならないよう出来ることを行っており、会話や表情、往診医、訪問看護師と連携し現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の希望や意見を取り入れ職員会議やケア会議で検討している。	担当職員のモニタリング記録を基に会議で評価内容を確認し、6か月ごとに介護計画を作成している。日々のケース記録は介護計画に沿った実施状況の内容になっている。今後は普段と違う様子も記載し、次の見直しにつなげたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に本人の訴えや心身の状態・食事・水分・排泄等の1日の様子を記録、職員間で連絡ノート活用し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、病院受診の送迎、訪問美容・訪問看護・訪問歯科・他事業所のデイケア利用等の柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方に施設の行事に参加して頂き一緒に楽しんだり定期的にボランティアさん来ていただいています。ミニコンサートやお祭り等、イベントに参加したりしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する病院があれば受診し、特に希望が無ければ協力医療機関を職員送迎で行っている。	月1回提携医療機関の訪問診療のほか、市立病院、労災病院、診療所を受診している。通院には家族が対応し、事情に応じて変化や緊急時には職員も同行している。往診と通院の経過を個別に記録し共有している。	

グループホーム ファイン

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護に来て頂き職員から個々の状況を報告し健康チェック・アドバイスを受け日常の支援に生かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に基本情報を提供し、入院中はお見舞いに行ったり、病院・家族と連絡を取り情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化した場合の指針を説明し書面にて同意を得ている。重度化した場合は家族の要望を聞き取りし施設で出来る対応を説明して方針を共有できるように取り組んでいる。	重度化対応指針に看取りの考えを明記し、利用開始時に医療行為には対応できないことも説明している。看取りの実施は主治医の判断や体制の整備もあり、現在は食事が摂れるまで可能な限り対応し、その都度関係者で方針を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状態が心配な時は管理者・訪問看護に連絡をして相談している。急変・事故発生時に備えて救急救命研修は一部の職員しか受講できていないので、全ての職員が研修を受講するように検討していきます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。町内の方には様子を見てもらい、次回からは具体的な地域との協力体制を築けるように検討する。運営推進会議の場では協力して頂けるようお話をしています。	2回とも消防署立会いで、運営推進会議と同日には日中を想定した訓練を行い誘導後の見守りで参加を得ている。次回は夜間想定訓練を予定している。地震の想定で事業所内の危険箇所を確認しており、今後は各ケア場面の対応を考えている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに配慮し利用者の目線でゆっくり話し、人生の先輩としての気持ちを忘れないように心がけているが、全職員にはいきわたっていない時があるので研修を通して指導していきます。	春期研修で接遇を学び、人生の先輩として言葉かけや対応を配慮している。ユニット会議では不適切な言葉かけなど再確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択できるような声かけをしたり、選択が難しい場合は表情や行動で読みとるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先・第一主義で 本人がやりたいことを優先する。体調・表情を観察しその方にあったペースで過ごせるように心がけている。無理に誘ったりはしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今まで使用していた化粧道具の継続使用をしたり、定期的な散髪・カラー・パーマ等をしている。洋服はご本人が選んだものを第一優先としています。		

グループホーム ファイン

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせ身体に負担にならないような調理・盛り付け・配膳・下膳・後片付けを一緒にしたり外食やお寿司の出前をとったりと楽しむ機会を設けている。	利用者が役割を持ち、職員と食事作りに参加している。ホームの畑で野菜の生育を楽しみ収穫後は食卓で味わっている。誕生会では好みの出前を選びケーキを添えてお祝いし、クリスマス会のバイキングは好評であり、楽しむ機会を工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を把握し ご本人の好みや状態に合わせて水分や食事の形状・大きさ等を変えている。身体の状態をみて訪問看護や主治医に相談したりしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。介助が必要な利用者には職員が介助したり、仕上げ磨きを行っている。必要時には歯科往診を利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄記録をとって排泄間隔にあわせて周囲に配慮した声かけを行いトイレ誘導をしている。紙パンツから布パンツへ移行する取り組みを行っています。	半数の利用者が自力でトイレでの排泄を行い、介助の必要な場合は、自分で出来る動作を促している。排泄パターンや体調を把握して利用者にあわせて言葉かけをしている。広めのトイレが3か所配置されており、失敗しないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り排便の有無を把握し水分量や食事に配慮しています。毎日の体操や散歩で予防に取り組み、改善が難しい場合は訪問看護・往診医に相談しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めずしماわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外は入浴できる体制で、利用者の要望時には対応を行っている。入りたくない時は無理をせず翌日に声をかける。浴室内での利用者と職員の会話も大切にしております。	利用者の習慣や入浴時の希望などを把握して週2回の入浴を支援している。利用者は職員との会話が楽しみであり、職員も入浴が気分転換となるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間気持ち様く眠れるように日中は適度な活動を心掛けている。、ご自分のペースで好きな時お部屋で休んだり居間のソファでくつろいでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個人ファイルしてあり職員が確認できるようにしてある。処方の変更になった時は申し送りに記入している。服薬は2名体制でチェックし、確実に飲みこんだか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴のアセスメントから好きな事・得意分野を把握し役割を持ってもらっている(家事・花壇・畑・書道等) ボランティアによる演芸・ドライブなどの外出行事で気分転換の支援をしている。		

グループホーム ファイン

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物の希望があった場合は職員と一緒に出掛けている。季節にあった場所にドライブへ行く。福祉タクシーを利用して外出する場合があります。	近隣への散歩や外出では車椅子の介助を行い、利用者が戸外に出かけるように取り組んでいる。花見や紅葉見物のドライブは恒例となり、利用者の外出希望は個別支援で対応している。外出確認表に記録し外出計画を工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額をご自分で管理している方は週に一度来る移動販売のパン屋さんで、ご自分で好きなパンを選び支払いを行っています。施設前の自動販売機で好きな飲み物を買ったりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきたときは職員が取り次いでいます。携帯電話を持参している方はご自由に電話されており、他の方は要望時施設内の子機を渡しています。手紙を出す際は職員がポストに投函することもあります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分には職員と利用者が手作りの季節に合った飾りつけをしている。室温や湿度を小まめに確認して快適に過ごせるように調整している。夜間時には間接照明を使用したりしている。	利用者と職員の4人で1家族の方針から、1ユニットには広いトイレや洗面台のスペースが3か所あり効率よい動線から混雑せず自分のペースで利用している。明るいリビングには利用者が集まり食材の下ごしらえや洗濯物たたみが出来るように、テーブルなどが置かれている。利用者の作品を玄関に飾り意欲を引き出す工夫もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂スペース以外に小規模のリビングスペースが2か所ありそれぞれにソファ・テーブル・テレビが設置しており、自由に好きな場所でくつろいだり、利用者同士談笑している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべく使い慣れたなじみの物を持参していただくようお願いしている。家族の写真や趣味で手作りの手芸品を飾ったり香りにも配慮し居心地良く生活できるようにしている。	使い慣れた家具や見慣れた小物、孫の写真や故人の家族写真が飾ってある。今までの習慣が継続できるように居心地よい部屋作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー。夜間はふらついて転倒の可能性があるので手摺代わりにするようにソファの位置をずらしたり、センサーマット使用し安全に配慮。入居者の状況に応じて手摺の取付やベッド脇に手摺をつけました。		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を確認できるところに掲示しており、スタッフ一同日々理念を確認し、理念に基づいた支援を心掛けているが、全職員には浸透していない。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っており、運営推進会議・夏祭り・クリスマス会等の行事には参加して頂いている。町内の行事に職員が参加することもあります。畑作業を町内会の方や毎月来て頂いているボランティアさんに手伝って頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて認知症の方の心理や行動等を伝えたり、散歩をして地域の方と直接会話をして認知症の方を理解してもらえるように努めています。また、併設の訪問介護事業所を通じて介護の相談にのるようにしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所高齢介護室・包括支援センター・町内会・ご家族に参加していただき、運営状況報告し様々な意見を頂き、職員会議でサービスの質の向上につなげるように話し合っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議に出席して頂きアドバイスを頂いている。毎月入居状況を報告している。電話やメールを利用し連絡を密にとることにより協力関係を築けるように努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で身体拘束について勉強会を行っている。今後は外部研修にも参加して禁止の対象となる具体的な行為について正しく理解するように取り組んでいる。施錠せず自由で開放的な居住空間を大事にしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で虐待防止について勉強会を行っている。虐待の前段階の不適切なケアを理解し職員同士や管理者と職員が密に情報交換やコミュニケーションを取って話し合っている。		

グループホーム ファイン

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の外部研修に管理者が参加しました。現在支援を必要としている方はいませんが、以前制度を利用されていた入居者の関係者とは繋がりを継続しているので必要時には活用できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約内容の説明・グループホームでの生活を説明しています。不安や疑問点はいつでもお問い合わせして頂けるよう伝えています。改定の際は文章で説明し同意を得るように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来所時には日々コミュニケーションをとり、話しやすい環境を作っています。仕事で忙しく連絡が難しいご家族とはメールでやりとりをしています。家族からの要望や意見は申し送りノートに記入し職員間で情報共有し、職員会議で話し合っています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で職員の意見や提案を聞き 施設運営に生かしている。年に1回施設代表が職員と個人面談を行い運営に関することや困っていることがないか話を聞いています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社会保険労務士と顧問契約を締結しており、定期的な指導を受け労働条件・職場環境の向上に努めている。職員個々の希望に沿った勤務シフトを作成し働きやすい環境に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修では外部講師を招いて身体介護の研修を行ったり、管理者が職員の力量に応じて個別にケアの方法を研修することがある。資格取得の講習に「行く場合は勤務シフトの調整や費用の援助をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しています。他の施設に見学に行き日中の過ごし方の参考にして質の向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・家族と面談し今までの生活歴などを伺い、在宅時のサービス事業所にも様子を伺いご本人らしく生活できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、不安に思っている事を聞き施設として何が出来るか・どういう対応をしていくか説明し一緒に考えていく姿勢に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のアセスメントや在宅時のケアマネやサービス事業所から情報収集し必要な支援を見極め家族と相談しながら出来る限りのことをする。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることは出来る限り行って頂くようにサポートし、声をかけて共に生活するという意識を持って安心して生活できるように心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも家族が来所できるような雰囲気作りを心掛けています。来所時にはご本人の様子を報告し情報を共有するようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が来訪された時には 自室内だけではなく応接スペースに案内し自宅に遊びに来たかのようなゆっくりとお話できる雰囲気でもてなし、いつでも気兼ねなく会えるように配慮することに努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流の際は職員も間に入り円満な人間関係が築けるように支援し、時には席替えなどをして孤立する利用者がいないように配慮に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も何か困った事がある場合はいつでも相談にのることを伝えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報をもとに日々の関わりの中で本人の思い・希望の把握に努めている。職員会議やケース会議で情報を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・在宅時のケアマネから情報収集に努めて、職員会議などで情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活のペースに合わせ負担にならないよう出来ることを行ってもらい、会話や表情、往診医、訪問看護師と連携し現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の希望や意見を取り入れ職員会議やケア会議で検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に本人の訴えや心身の状態・食事・水分・排泄等の1日の様子を記録、職員間で連絡ノート活用し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、病院受診の送迎、訪問美容・訪問看護・訪問歯科・他事業所のデイケア利用等の柔軟な支援行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方に施設の行事に参加して頂き一緒に楽しんだり定期的にボランティアさん来ていただいています。ミニコンサートやお祭り等、イベントに参加したりしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する病院があれば受診し、特に希望が無ければ協力医療機関を職員送迎で行っている。		

グループホーム ファイン

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護に来て頂き職員から個々の状況を報告し健康チェック・アドバイスを受け日常の支援に生かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に基本情報を提供し、入院中はお見舞いに行ったり、病院・家族と連絡を取り情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化した場合の指針を説明し書面にて同意を得ている。重度化した場合は家族の要望を聞き取りし施設で出来る対応を説明して方針を共有できるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状態が心配な時は管理者・訪問看護に連絡をして相談している。急変・事故発生時に備えて救急救命研修は一部の職員しか受講できていないので、全ての職員が研修を受講するように検討していきます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。町内の方には様子を見てもらい、次回からは具体的な地域との協力体制を築けるように検討する。運営推進会議の場では協力して頂けるようお話をしています。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに配慮し利用者の目線でゆっくり話し、人生の先輩としての気持ちを忘れないように心がけているが、全職員にはいきわたっていない時があるので研修を通して指導していきます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択できるような声かけをしたり、選択が難しい場合は表情や行動で読みとるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先・第一主義で 本人がやりたいことを優先する。体調・表情を観察しその方にあったペースで過ごせるように心がけている。無理に誘ったりはしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今まで使用していた化粧道具の継続使用をしたり、定期的な散髪・カラー・パーマ等をしている。洋服はご本人が選んだものを第一優先としています。		

グループホーム ファイン

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせ身体に負担にならないような調理・盛り付け・配膳・下膳・後片付けを一緒にしたり外食やお寿司の出前をとったりと楽しむ機会を設けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を把握し、ご本人の好みや状態に合わせて水分や食事の形状・大きさ等を変えている。身体の状態をみて訪問看護や主治医に相談したりしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。介助が必要な利用者には職員が介助したり、仕上げ磨きを行っている。必要時には歯科往診を利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄記録をとって排泄間隔にあわせて周囲に配慮した声かけを行いトイレ誘導をしている。紙パンツから布パンツへ移行する取組みを行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り排便の有無を把握し水分量や食事に配慮しています。毎日の体操や散歩で予防に取り組み、改善が難しい場合は訪問看護・往診医に相談しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外は入浴できる体制で、利用者の要望時には対応を行っている。入りたくない時は無理をせず翌日に声をかける。浴室内での利用者と職員の会話も大切にしております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間気持ちよく眠れるように日中は適度な活動を心掛けている。、ご自分のペースで好きな時お部屋で休んだり居間のソファでくつろいでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個人ファイルしてあり職員が確認できるようにしてある。処方の変更になった時は申し送りに記入している。服薬は2名体制でチェックし、確実に飲みこんだか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴のアセスメントから好きな事・得意分野を把握し役割を持ってもらっている(家事・花壇・畑・書道等) ボランティアによる演奏・ドライブなどの外出行事で気分転換の支援をしている。		

グループホーム ファイン

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物の希望があった場合は職員と一緒に掛ける。季節にあった場所にドライブへ行く。福祉タクシーを利用して外出する場合があります。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額をご自分で管理している方は週に一度来る移動販売のパン屋さんで、ご自分で好きなパンを選び支払いを行っています。施設前の自動販売機で好きな飲み物を買ったりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきたときは職員が取り次いでいます。携帯電話を持参している方はご自由に電話されており、他の方は要望時施設内の子機を渡しています。手紙を出す際は職員がポストに投函することもあります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分には職員と利用者が手作りした季節に合った飾りつけをしている。室温や湿度を小まめに確認して快適に過ごせるように調整している。夜間時には間接照明を使用したりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂スペース以外に小規模のリビングスペースが2か所ありそれぞれにソファ・テーブル・テレビが設置しており、自由に好きな場所でくつろいだり、利用者同士談笑している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべく使い慣れたなじみの物を持参していただくようお願いしている。家族の写真や趣味で手作りした手芸品を飾ったり香りにも配慮し居心地良く生活できるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー。夜間はふらついて転倒の可能性があるので手摺代わりになるようにソファの位置をずらしたり、センサーマット使用し安全に配慮。入居者の状況に応じて手摺の取付やベッド脇に手摺をつけました。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 グループホーム ファイン

作成日：平成 30年 3月 23日

市町村受理日：平成 30年 3月 28日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	23	アセスメントには本人の趣味・嗜好等を記載していますが日常生活の何気ない会話の中からの思いや意向、好きな物等の情報が記載されていない。その為、職員間で情報共有がされていない。	本人の何気ない思いや意向を職員が見えやすい所に記載することにより情報共有され、介護計画に反映されご本人らしいより良い日々が過ごせるようになる。	利用者との会話の中から得た意向の変化や思いを記録することに慣れる為、まずはセンター方式(B-3)シートを活用する。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。